



滋賀県草津市立草津中学校

令和4年5月16日(月)発行

「いのちがやき 心豊かな生徒の育成」  
～ひとを大切に ひとつを大切に～

5月16日現在 全校生徒数664人



## 「親の心」に思いをはせて

草津中学校 校長 高田 聡

去る5月8日(日)は母の日でした。また、5月5日のこどもの日は「子どもの人格を重んじ、子どもの幸福をはかるとともに、母に感謝する日」と法律で定められています。ちなみに、6月19日(日)は父の日です。この5月6月は家族を振り返ることが多い時期のようです。そこで今回は「親子」について考えてみましょう。

親と子の間では、ときに様々な葛藤が生じるものです。それは「自分にとって最も身近な存在だからこそ」「お互いのことを大切に思っていればこそ」という面もあるでしょう。その関係性を見つめ直すとき、心にどんな思いがわき起こるでしょうか。

子どもが成長していく過程では、いろいろなことが起こります。親の心配が尽きることはなく、「この子が幸せな人生を歩んでいけるように」と願えば願うほど口やかましく

なってしまう、その結果、当の子どもから反発を受ける場合もあるのではないのでしょうか。親の思い通りに行かないのが子育てなのでしょう。親の立場から考えると、そんな時は一呼吸置いて「自分自身の歩んできた道」を振り返ってみるのもいいのかもしれない。わが子のつまずきに、かつての自分の姿が重なったとき。親としての自分の葛藤に、遠い日の父や母の姿が重なったとき……。そこであらためて「親心」というものの深さに気づくこともあるのです。

親子の関係や家庭をめぐる状況は人それぞれです。中には何らかのわだかまりを抱えているという場合もあるでしょう。しかし、どんな人にも共通して言えることがあります。それは、親が存在しなければ、私たちはこの世に生まれてくることはなかったということです。また、誕生後は親だけでなく、周囲の人たちによる献身的な養育のおかげで今日を迎えているはず



<授業参観の様子>

そして父母の先には祖父母の存在があり、さらにその先には曾祖父母が存在しています。そこには、はるか昔から受け継がれてきた「いのちのつながり」があるのです。それは単純に「生命をつないできた」というだけではなく、「どうかこの子が人生をしっかりと歩んでいけるように」という親世代の温かい思いもまた、代を重ねて受け継がれてきているのではないのでしょうか。私たちはそんな多くの人たちの願いの結晶として、今を生きています。そのことに心を向けるとき、「私たちは誰もがかけがえのない存在である」という事実

に気づくのもいいのかもしれない。それは自分自身や「わが親」「わが子」といっても例外ではありません。現実の親子の関係の中で感情のもつれが生じたときは、まず「一人ひとり、かけがえのない存在である」という事実と「今、ここにある日常」のありがたさを思い起こしましょう。

では逆に「子どもの立場」で考えてみるとどうでしょうか。私たちを生み育てた親からみると、わが子とはいくつになっても「かけがえのないわが子」であり続けます。大人になり、自立して経済的に豊かな生活を送るようになって、親は常にわが子のことを心配し気づかう存在なのです。その親が喜び安心するのはどんなことなのか・・・まずは「かけがえのない自分自身」を大切に



<給食の様子>

ていくことが最も大切なのです。その点に心を向けたなら、「自分の人生、好き勝手にしてもかまわない」とは言えないでしょう。

親といえども短所も欠点もある人間ですから、ときには失敗することも、間違えることもあります。子どもの立場からは、そうした「目に映る形」のみにとらわれてしまい、その奥にある「親心」には気づきにくいものかもしれません。しかし、子どもの幸せを願う「親心」というものを知り、その尊さが理解できたなら、心の中に温かい力が生まれてきます。それはきっと、これからの長い人生を歩いていく上で、自分自身の大きな支えとなるに違いありません。



<修学旅行実行委員による説明>